

松村正恒語録  
自然と家とにんげんと  
「竹のはなし」 山田竹材 (その二)  
愛媛県建築士会会費納入期限に関する重要なお知らせ



1	松村正恒語録 人のために for good life			……①
2	自然と家とにんげんと はじめに	松山支部	橋詰 飛香	……②
3	竹のはなし 山田竹材 (その二)	山田竹材	山田 清昭	……③
4	光のはなし 建築の窓明かりについて	宮地電機株式会社	田部 泉	……④
5	しつらひ つづき『いろ』いろいろ など	松山支部	東 優	……⑥
6	業・技 左官があるのに右官はないの？	(株) 濱崎組	菊池 浩志	……⑦
7	夢・現 心を澄ませば	松山支部	玉乃井公和	……⑧
8	委員会報告 安長家(松山市市坪南)測量調査 文化財・まちづくり委員会 委員長		花岡 直樹	……⑨
9	支部報告 とびだせ建築士 in 東予 とびだせ建築士 (道後温泉本館) に参加して とびだせ建築士 in 南予 道後オンセナート見学会に参加して	青年委員会 松山支部 宇和島支部 松山支部 松山支部	青陽 孝昭 ……⑮ 河野 行信 ……⑯ 亀岡 泰治 ……⑰ 和泉 秀弥 ……⑱ 八束智恵美 ……㉒	
10	けんちくの輪 これからも! けんちくの輪	松山支部 宇和島支部	西森 勉 ……⑲ 亀岡 泰治 ……㉑	
11	お知らせ 第6回理事会報告(概要報告) 愛媛県建築士会会費納入期限に関する重要なお知らせ 平成27年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について 編集後記 山田きよ版画展		事務局 ……㉓ 事務局 ……㉔ 事務局 ……㉕ 事務局 ……㉖ 事務局 ……㉗	

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



版画

題：昼下がりの城下  
山田 きよ

[表紙の版画について]

一番町、伊予銀行と松山市役所の通りからの風景で、2000年の作。当時、横断歩道があり、信号機が青に変わる度に、歩道上からいいロケーションを求めて電車を待った。城下の歴史に深みを持たせるため、敢えてモノクロで仕上げた作品である。

表紙作者 山田 きよ プロフィール

- 1959 喜多郡五十崎町(現内子町)に生まれる
- 1980 松山デザイン専門学校卒業
- 1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く
- 1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作以後、内子町内子座や大風合戦のポスターを手がける
- 1993 初の個展
- 2003 愛媛県文化協会奨励賞
- 2012 個展回数が100回となる

(本名 山田 清昭 内子町在住)

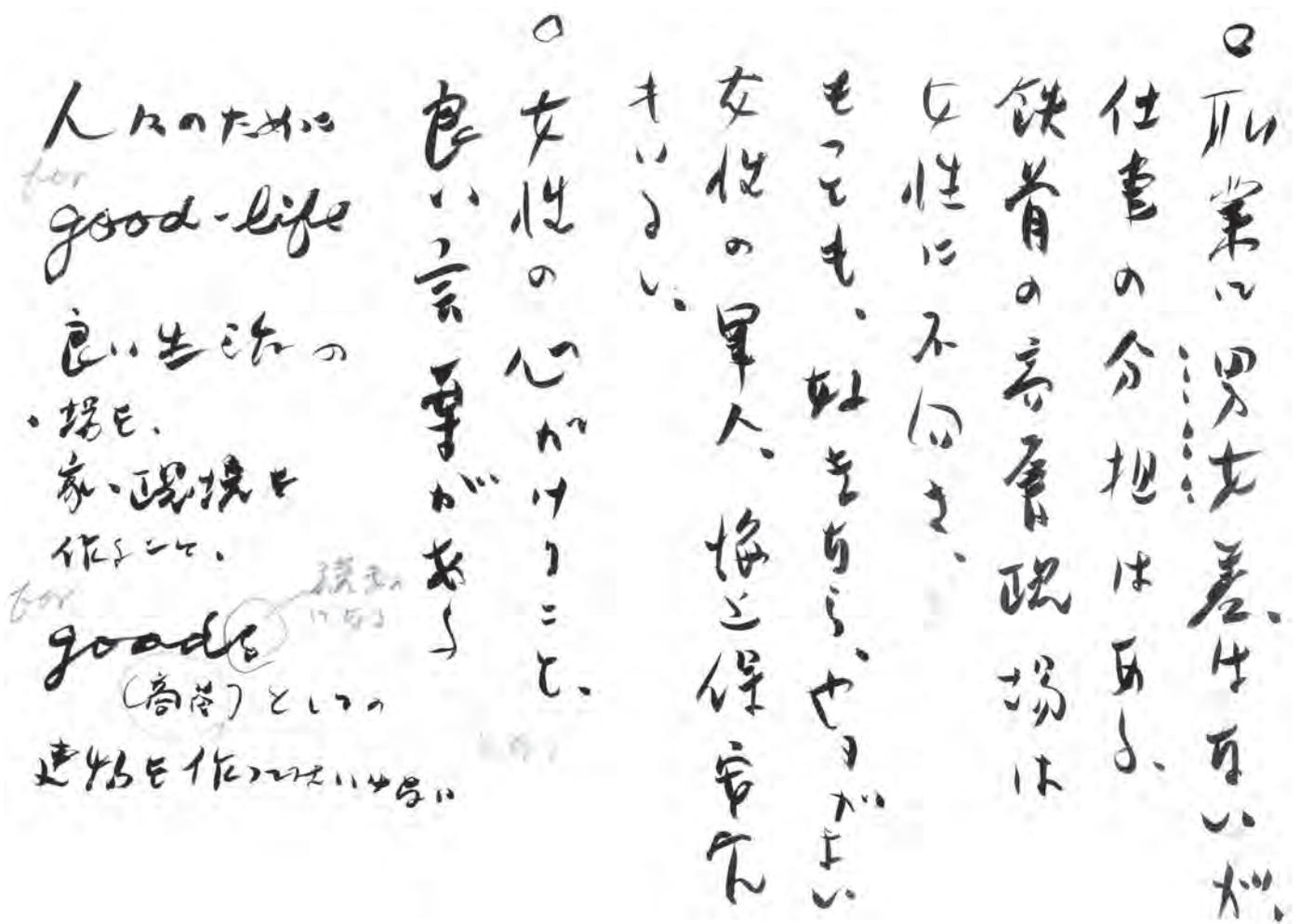
# 人のために for good life

職業に男女差はないが、仕事の分担はある、鉄骨の高層現場は女性には不向き、もっとも、好きならやるがよい。女性の軍人、海上保安官もいる。

女性の心掛けること、良い言葉がある。

人のために for good life (良い生活の場を、家、環境をすること)

for goods (商品) としての物を作ってはいけない。



# はじめに

松山支部 橋詰 飛香

すっかり建築士会では幽霊会員を決め込んでいた私を、深い深い穴蔵から引きずり出すが如く、大先輩でもある玉乃井さんからの一本の電話。

「自然と家とにんげんと、というタイトルで原稿を書いてくれないだろうか」と。「いしづち」への原稿依頼でした。しばらく建築の集まりからは遠のいていた私には些か腰が退けるような依頼でしたが、すでに玉乃井さんのなかではタイトルも決まっていた思惑あってのご指名のよう。さて…。

私自身は今治に籍を移して以来、半農半設計をめざすべく農的な暮らしを夫婦で邁進。そんななか昨年、念願であった田舎に移住をし、根を張るべく鈍川の地にやっと落ち着いたばかりのところでもあります。自然溢れるこの地に移り住み、大地の土に近いところで自然に寄り添いながら自分たちの生き方、暮らし方、そして建築を見つめたいと思ってのこと。

ここ鈍川は自然も豊かであり、若い私達を受け入れてくれる懐の深さもあり、「新しい風を吹かせてほしい」と、今後里山での新たなライフスタイルの提案もできそうな地でもあります。



(美しい景色が残る鈍川の地)

そして私の手掛ける昔ながらの家づくりに、自然の素材は欠くことができません。自然が豊かであるからこそ出来上がる家でもあり、自分の手でお米をつくりたいと思立ったのも、日本人の主食である米と家との切っても切れない関係を知り、ひとつに繋がって循環していた日本文化というものに心惹かれたからでもあります。

昔ながらの家づくりと出逢って、モダンでお洒落な建築が大好きだった設計者としての生き方は、180度方向転換してしまったと言っていいでしょう。ずっと古臭く時代遅れと感じていた家づくりでしたので、轉身ぶりは自分自身でも驚きでした。

先人達が遺したのからや、職人さんたちから、素材のことや仕事のこと。造りのことを教えてもらいながら、昔ながらの家づくりを学び、今の私がありますが、この家づくりを通して学んできたことは数え切れないほどあり、自然の深さを常に教えられます。

自然の理のなかにある家づくり、そこに何不自由ない暮らしをしている私達が失おうとしている大切なものを感じ、心惹かれて止まなかった。

この家づくりから、忘れてはいけないもの、無くしてはいけない美しいものを感じています。

今の時代、昔ながらの家づくりは時代に逆行した厳しい現状があります。失いかけてようとしている技術や知恵、もう既に無くなってしまった職種もあります。しかしこれから先、私達が向かおうとしている先を見つめていかなければと思っています。

安さや効率、経済性だけを求めた粗悪な物が世には溢れ、長く愛していくに耐えない物たちが氾濫し、そして自然も壊されていっています。果たしてその先にあるものは…。

私は、先人達が遺してくれたこのささやかな美しい物づくりが大好きです。そこから自然との関わり方や、自然の一部としての自分の立ち位置を見つめることが出来るから。

徒然なるままに、この昔ながらの家づくり、そしてその心の内を書いていければと思っています。



(昔ながらの家づくりをお伝えするべく住居も見つけて)

## 山田竹材 (その二)

山田竹材 山田 清昭

現在、めっきり見ることがなくなってしまったが、かつて住宅の壁には「ねり土」が施されていた。その土壁の内部には、それを塗り留める骨格に「竹」が設われている。これは、古来先人達が編み出した快適な住まい造りの原点ともいえる建築物の工法であった。（「築」には竹と木が入っているところを見ると、如何に重要だったかが伺える）

造れよ増やせよの戦後の昭和20・30年代から40年に入ると、工法や材料の進歩や開発に伴い、さまざまな合理化が図られ、多くの住宅が建築されていくことになる。

それに目を付け、原竹で販売していた壁下地の小舞竹（この辺りでは「えつり竹」という）を割竹にして規格販売することにした。量産することで機械化が求められ、ワンメイクの竹割機と竹はぎ機を八幡浜市内の鉄工所へ制作依頼をし、同54年、小舞竹用の割竹販売を始める。

ところが製品化したものの、新しいモノに抵抗があるのか、思うように売れない。職人というものはとかく頑固で、既存の在り方を尊厳するきらいがあるようだ。

しかしそれも、価格や効率がいいことが分かると、どんどん消化されていくようになる。同56年には製品の流通が円滑に進み、繁忙を深めていくことになる。

販路先の造園業界も景気がよく、特に東予地方では庭に住まいの安らぎを求める風潮が漂い、竹垣設置が増えていた。中でも「建仁寺垣」と呼ばれる、制作された立子を並べて張っていく竹垣が人気で、タイミングを逃さず製造を始める。

肉厚のある太い竹を材料とするため、肉厚の少ないものを好む小舞竹との適用バランスが好都合であった。

その頃、私は松山で広告デザインの仕事に従事していたのだが、家業が順調ということから「帰れ！」コールが日増しにうるさくなってきた。

広告デザインの業界で、モノになれないことに気付いた頃だったので、松山での生活に未練があったものの、健全で安定した生活へと故郷へ帰町することにした。同57年、私が22歳のときである。

父は先のことをにらんでか、4tトラックを二台に増やし、フォークリフトも購入し、増々意気盛んとなり、販路を香川県まで拡張し、まさに順風満帆の山田竹材であった。



孟宗竹林へ いざ伐採！ 50歳の夏

# 建築の窓明かりについて

宮地電機(株) 市場開発室 照明・LED 担当室長 田部 泉

色々な建築視察したとき、いつも窓が気になります。

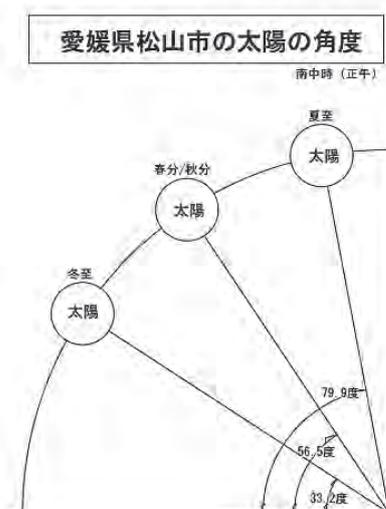
窓はどのような機能があるのか？

「(まど) とは、採光、通風、眺望といった目的のために日常は人の出入りに供さない開口部に設置される可動型もしくははめ込み型の建具。部屋や廊下などの建物の外壁部分や屋根などに設けられる。」

採光について注力してみると自然光は夏至と冬至によって太陽の角度が違います。

愛媛県松山市は緯度 33.5 度、経度 132.45 なので、簡易に計算してみると夏至は 79.9 度、春分 / 秋分 56.5 度、冬至は 33.2 度の角度で日光が入射します。建築的に考えると窓だけでなく庇の出幅や室内の光の取り入れ方で室内の明るさや雰囲気が変わる。

また、窓の取り付け位置や大きさや意匠によって建築デザインが大きく左右されると思うし、窓を見て設計者の思考力が試される気がする。



今まで見てきた建築の「窓」を見てみます。

## 1. 光の教会 (安藤忠雄氏) 1989 年竣工

日本キリスト教団茨木春日丘教会の礼拝堂内に RC 壁に十字架状のスリット窓を切り取った有名な教会です。十字架を切り取った窓の端部の天井や壁面、そして床面に差し込む光が時間と共に変化が見られる静粛な空間です。



## 2. 四国物産(株)本社 (水谷頼介、高月昭子) 1969 年竣工

2013 年改修、RC 造り 2 階建ての事務所ビルである。建物の両サイドには大きな丸窓が多数設けられていて、丸窓から光が和らぐような効果的な光が室内に飛び



込んでいる。

### 3. 桂離宮 1662年

江戸時代初期に八条(桂)宮智仁(としひと)親王、智忠(としただ)親王父子が、所領であった現在の京都市西京区桂御園の地に造営した別荘建築。古書院、中書院、新御殿の3棟の数寄屋(すきや)造の書院、回遊式の庭園、月波楼、松琴亭、笑意軒などの茶室がほぼ完成されたときの形のまま残る。(世界大百科事典参照)

見学会はすべての場所の探索が出来るのでなく決められたコースの説明だけであったが、十分に雰囲気を感じることができた。

和紙の障子越しの光が室内に柔らかい拡散光として天井面や壁面、そして床の畳面に光のグラデーションを見ることができた。反射率の違う木材や竹、土壁、襖などによる柔らかな光が印象的であった。



### 4. 日土小学校(松村正恒氏) 中校舎 1956年、東校舎 1958年、改修 2009年

改修前も改修後も何度か見学させて頂いた。いつもその場に佇んでいて感じるのは、非常に教室や廊下が明るい印象がある。

窓は床面や天井まであり、その入った光を床面や壁面や天井に間接光として室内の奥まで送り込んでいる。外部の庇を見ると角度のあるルーバーになっていて夏の暑

さにはルーバーで光を遮り、風を入れることが出来るようにしてあったのだと感じた。

自然光を入れる工夫も有りますが、その自然光に反射して柔らかい光に色紙(クロス)が、光の波長を変化させる工夫が雰囲気を和らげる効果があると感じている。

人工的な照明が少ない時代の明るさの効果を最大限に建築で工夫している。



建築の窓、庇、室内の光を効果的活用した取り付け場所などを注目して見てみると光が感じられる。現在の間接照明としての工夫は人工光が少ない時代では自然光でも活用できる工夫が多く見受けられる。

光の側には面(天井面、壁面、床面)を取り入れることで光を室内に柔らかいグラデーションで導く現場をこれからも見て行きたい。

以上

## つづき 『いろ』 いろいろ など

しつらひ

5

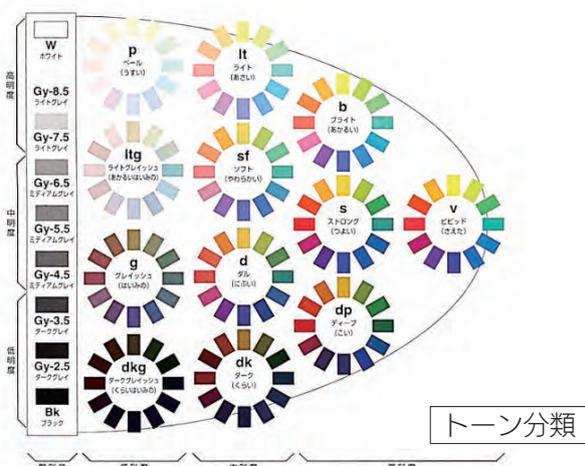
松山支部 東 優



『いろ』について続きです。

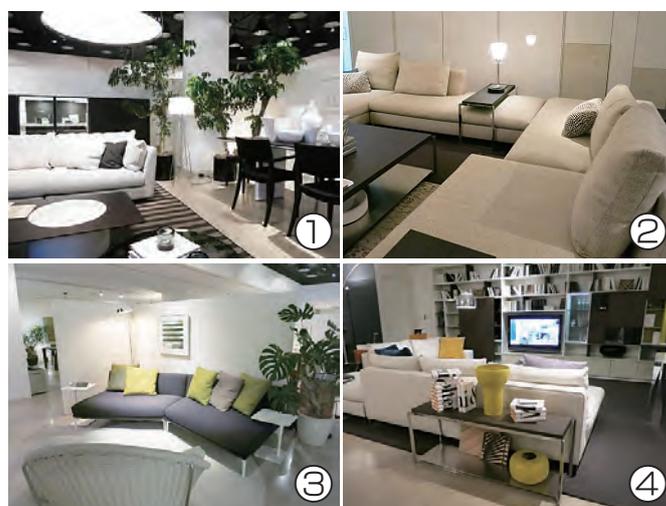
居心地のよい暮らしには、床・壁・天井などの内装材、家具やカーテンなどの色の組合せを気づかうことが大切です。暮らしの中にあふれる魅力・威力いろいろの『いろ』。心地よい『いろ』を実現するために大切なこと、“トーン”や“配色”について。

色には、明度（明るいから暗いまでの段階）と、彩度（鮮やかさの度合い：冴えた色から無彩色に至る段階）があります。トーン（色調）はこの明度と彩度を合わせた考え方です。



例えば黄色。鮮やかな強い黄色、少し白を混ぜた淡い黄色、少し灰を混ぜたにぶい黄色、少し黒を混ぜた渋めの深い黄色。同じ色でもトーンの違いで、『感じ』が変わります。『こんな感じにしたい』・・・あかるい、落ち着いた、ナチュラルな、軽やかな、女性的な、ロマンティックな、生き生きした、派手な、華やかな、格調高い、重厚な、伝統的な・・・は“トーン”によっても表現されます。トーンは、形式や様式と同じく、『感じ』に関わる大切な要素なのです。

色の組み合わせ、配色について。「配色は、まとまり（統一）と変化の良きバランスから生まれる」と言われます。まとまりだけでは物足りないし、変化だけでは落ち着きません。それらの反対の要素を加えて、良い調和を作り出します。同じ色でトーンを変化させたり、逆にトーンを揃えて色相を変えたり。



- ①：白と黒のモノトーン。メリハリのあるモダンなインテリア。
- ②：淡いベージュのまとまりの配色。黒のボリュームが少なく①のインテリアと比べてソフトな印象になります。
- ③も②も、統一感のある落ち着きを感じます。
- ③：濃い紫のソファにアクセントのクッションが黄色と緑。紫ときわだつ黄色と緑が、心地よい動きを生みます。
- ④：アクセントの小物の黄色の繰り返し、自然に人の目がその色を追う（目の回廊・アイ・コリドール）、空間を一つにまとめます。

床・壁・天井などのベース（基調色）が70%。ソファやカーテンなどアソート（配合色）が25%。そしてインテリア小物のアクセント（強調色）が5%。そんな面積でまとめるのもコツ。

心落ち着かない“騒色”はNGですが、壁を遊び、建具の襖紙などで大胆に遊ぶのも粋です。色相やトーン、様式、材質感や面積。さりげなく『いろ』を操り、遊び、奏でる、そんな心地よい“奏色”の『しつらひ』をめざしたいものです。



柱離宮

# 左官があるのに右官はないの？

（株）濱崎組 菊池 浩志

我々の左官という名は、実は平安時代からあった名前です。宮中での仕事には官位の無いものは入る事が出来ないで、土壁職人に「官」という位を与えました。そこから土壁職人を左官と呼ぶようになったようです。当時の左は佐で官（右官＝大工棟梁）を補佐する、という文字が当てはめられていた様ですが、其の後、右と左の官位では左が優先で本来の現場の長である大工がそれを嫌い、右の官は消えていったと云う説もあります。

左官が隆盛を極めたのは城郭建築が盛んになった安土桃山時代から戦国時代です。当時、石灰と海草糊を混ぜて使う独特の漆喰工法が確立されました。漆喰が城に使われたのは、その優れた防火性と耐久性のためです。その他にも、調湿機能やカビが付きにくく遮音性や遮光性能にも優れ、日本古来の自然素材であり四季のある日本の風土に合った建材と言えるでしょう。白鷺城と称される姫路城など白い漆喰壁が数百年にわたって美しい構造体を保護しています。結果的にこの優れた漆喰の登場が、左官の業と技を確立させました。



平成の大改修工事が終わった姫路城

左官の技は、昨日今日で身に付く仕事ではありません。そもそも左官職人が一人前になるには最低6年から10年の年月が必要と云われています。しかし時代とともに建物が変化し左官職の仕事も変化しています。特に左官の仕事の特徴は、現場施工という点にあり、左官材料を水で練って使用する湿式工法であり工期が長くなります。戦後の建築現場では合理化・効率化を一番に考えられた為に、左官職人が技能を發揮する場が減り熟練の左官技能士の高齢化もあって左官の工事自体が減少する傾向にありましたが、近年の環境問題で塗り壁工事自体が見直されて健康面でも注目を浴びています。

また、左官職人は体力のみならず、芸術的なセンスが求められます。ある時は鏡のようにつるつるに、ある時はコテの模様でダイナミックに壁を仕上げていきます。依頼主の要望に応じて、様々なバリエーションに壁を塗り分ける技が必要です。左官は壁をキャンパスに描くアーティストと云えますし、漆喰に代わる新建材も次々に登場してきました。

日本と西洋の比較を建築の構造から見た時、西洋建築の主流は組積造であり壁自体が建築を構成し、壁の崩壊はすなわち建物の崩壊を意味します。一方で日本の家屋の構造主体は柱と梁などの軸組であり、壁は単にその間をふさぐカーテン的な役割しか持たず、壁の崩壊が必ずしも建物の崩壊に繋がらない為に、壁の強度より仕上げの美しさを求める事に専念できたのではないのでしょうか。歴史的にみても壁は絶えず左官の技の対象になって来たのではないかと思います。

そんな環境から生まれてきた左官の技の一つが、鏝絵（こてえ）です。これは左官職人が鏝一本で制作した漆喰の装飾です。題材は福を招く物語、花鳥風月が中心であり、着色された漆喰を用いて極彩色で表現されます。仕事をさせて頂いた左官が施主への業の恩返しと云う説もあります。

建築家の方々には更にもう一度、日本の気候風土にあった壁と左官の技に関心をもって頂ければ、我々左官の技の継承も少しは容易になってくると思います。



今治市の札所泰山寺の奥ノ院 龍泉寺にある鏝絵

# 心を澄ませば

松山支部 玉乃井 公和

思い起こせば、私達が学校で教えられた、当時の建築思潮の主流は「機能主義建築」というものでした。その機能主義建築で教わったことは、大雑把に言えば、例えば住宅をプランする場合、人の動きが単純で、1メートルでも動く距離が短いほうが機能的でよい住宅である、といったものだったと思います。(もちろん、それが本来の機能主義建築の考え方だったのかどうかは分かりませんが。)

それから、この機能主義とともに、古いものを否定する“革新的”な合理主義のようなものが加わって、「床の間などは使い道のない無駄な空間である」、といったことも教わった記憶があります。

建築を設計するとき、機能的、合理的であるということは、もちろん大事な要素ではありますが、今から思えば私達の学んだ機能主義というものは、ハンドルの遊びのない車を運転するような、どうも肩がこりそうな代物だったようにも思えます。

ある時代の“流行思想”のようなものの渦中にあっては、言わば“肩こり”が正義とされ、“肩こり”を目標とするようなことがあったということです。

もちろん、その当時の社会や経済状況の“言い分”も十分に聞く必要があることは言うまでもありませんが。

ただ、この機能主義の“肩こり”について住宅を例に見てみれば、今はその当時に比べれば経済状況も随分とよくなり、豊かになったにもかかわらず、ほとんど大多数の住宅は、パズルのような間取りの上に表層のトッピングが施されただけの、相も変らぬ“肩こり住宅”が作り続けられている、というのが現状ではないかと思えます。

言い換えればこれは、いつまでたっても人間を、身体的機能の生き物としてしか扱っていない、ということにもなります。

イメージすればそれは、映画「モダン・タイムス」の中でチャップリンが、機械に食事をさせられるシーンのようなものです。

住まいを設計する際の、設計者としての必要な“体験”は、唐突ながら「人間とは何か」という、川の源流をさかのぼる空想の旅をすることではないかと思えます。

シンプルに言えばその空想の“結論”は、「人は心が主体の生き物である」という、当たり前のことを“知る”ことにあるのではないかと思えます。

常に“そこ”を見つめながら住まいを考えてゆけば、自ずと住まいは人の心に対する設計、即ち「豊かな空間」が大事である、ということも見えてくる筈です。そしてそこから生み出されたプランには、たとえ長い廊下があったとしても、無駄なものは何一つなく、むしろそれが豊かさとなって、人の心に「歓び」をもたらしてくれるのではないかと思えます。

心を澄ませて人の有り様を見つめてみれば、あるべく住まいの設計の姿もまた見えてくるのではないかと思えます。



# 安長家（松山市市坪南） 測量調査

委員会報告

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

安長家は市坪南、JR市坪駅のすぐ東側に位置する。駅の西側には坊ちゃんスタジアムを始めとする松山中央公園が広がり、その先で重信側と石手川が合流する地形となっている。市坪の部落は、元は現在の坊っちゃんスタジアムのあたりにあり、先祖の安長九郎左衛門は郷土であり、元和6年（1620）の大洪水の際には、私財の全てを放出して堤を築いたと記録に残されている。しかし、その後も度重なる洪水による氾濫に堪えかねて、村ごと今の場所に引っ越したとされる。

敷地は北・西・南の三方が道路に面し、南面東寄りに長屋門を開き、東隅に2階建の蔵を置く。主屋（母屋）は敷地中央のやや東寄りに建ち、長屋門と主屋の西側を庭としている。主屋と蔵の間に別棟の便所・倉庫があったが、今は取り壊されている。



安長家全景（西南より見る）

主屋は梁行（奥行）4間半、桁行（巾）8間の平屋建てである。創建年は最近「安長家文書」の研究により万延元年であることが明らかになった。その中の「嘉永七年 諸記録」に安政南海地震で居宅が潰れ、長屋住まいをしていたところ、安政4年（1857）の芸予地震で、その長屋も被害に遭って、万延元年（1860）によりやく居宅が造営できた、と記されている。

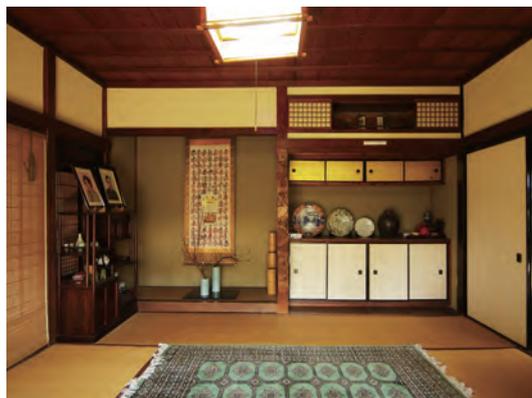


主屋全景（南より見る）



主屋全景（南東より見る）

東側3間半の部分は、現在は玄関に入った5畳分の土間を除いては床上げされ、12帖の和室や台所に仕切られているが、当初は全体が土間の大空間であった。残りは田の字型に間仕切られ、南西の部屋を座敷とし、南・西面に縁を設けている。柱は枿材で床柱には杉の面皮柱が使われている。床脇は背の高い地袋と天袋を設け、その上を神棚としている。天井は竿縁天井とするなど全体的に質素にまとめられているが、障子は漆塗りとするなど、家の格式にあった造りとなっている。東の8帖の次の間は根太天井とし、9.2寸（280mm）の差鴨居が目を引き。



座敷の床の間と床脇



座敷（奥）と次の間

屋根は四周の下屋部分が瓦葺き、中央部分は当初は茅葺きであったが、平成の初めごろスレートに葺き替えられた。元の茅葺きの屋根にスレートをかぶせたのではなく、形を整えて前後左右が対称となるように新たに屋根下地を起こしたことが今回の調査で判明した。



主屋屋根 上段はスレート葺きで下野は瓦葺き

長屋門は4間×2間で、東半分を門、西半分を倉庫としている。蔵は3間×2間の2階建てで、屋根は本瓦葺きで、外壁は腰（1階）をなまこ壁、2階を漆喰塗としている。2階は牛梁に登り梁を架け空間を有効に利用している。



敷地南面 長屋門と蔵が並ぶ



長屋門（手前）と蔵



蔵全景（南東より見る）



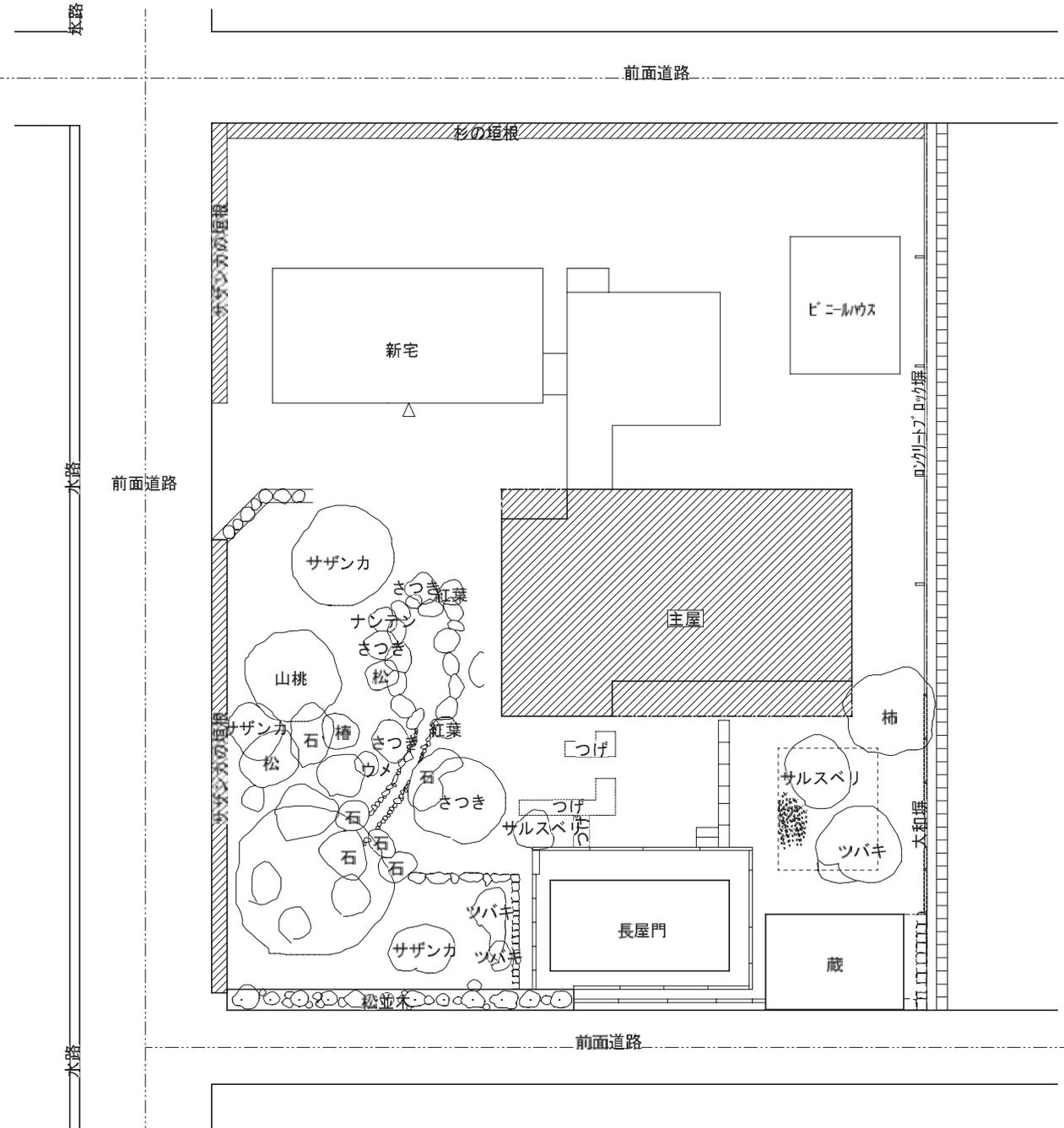
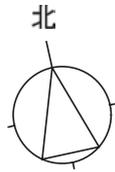
同上（北西より見る）

お母様（昭和9年生まれ、平成26年4月28日没）が先祖から受け継いだこの家を大事に思い、維持管理されてこられたとのこと。残された子供さんたちがお母様の意志を受け継ぎ、保存・活用しながら次の世代まで残されることを願ってやまない。

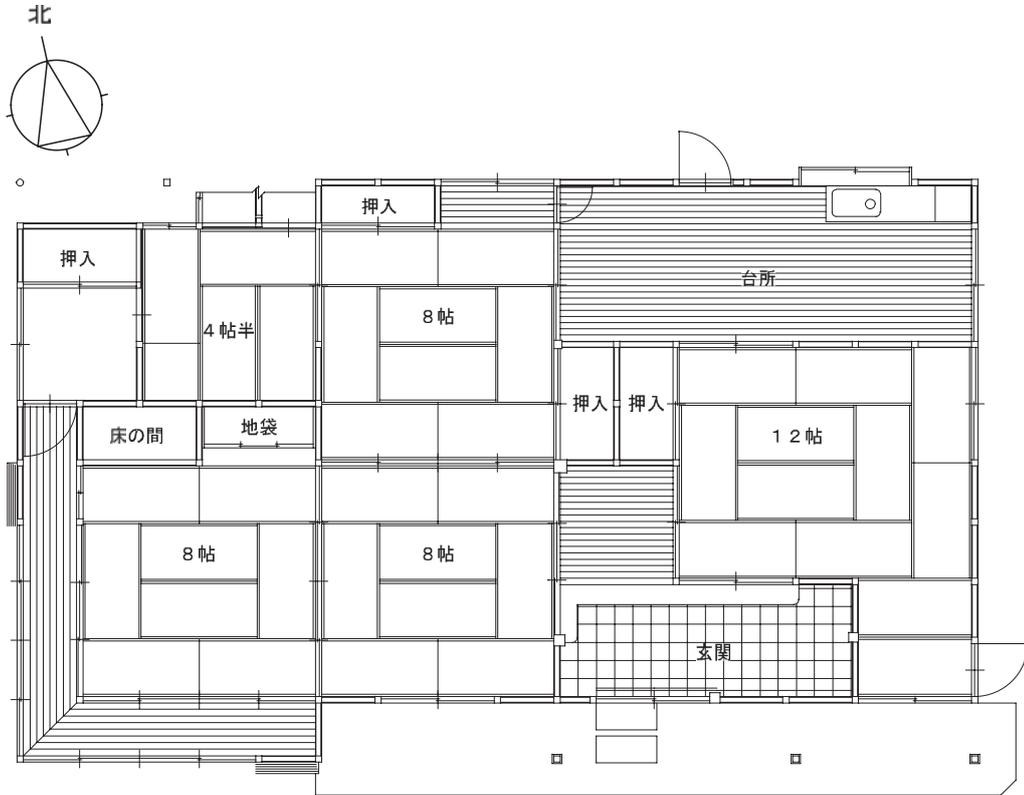
調査年月日：平成26年11月22日（土）  
 測量、図面・報告文作成  
 久保 孝、酒井純孝、花岡直樹、花岡晶子  
 峰岡秀和、若松一心



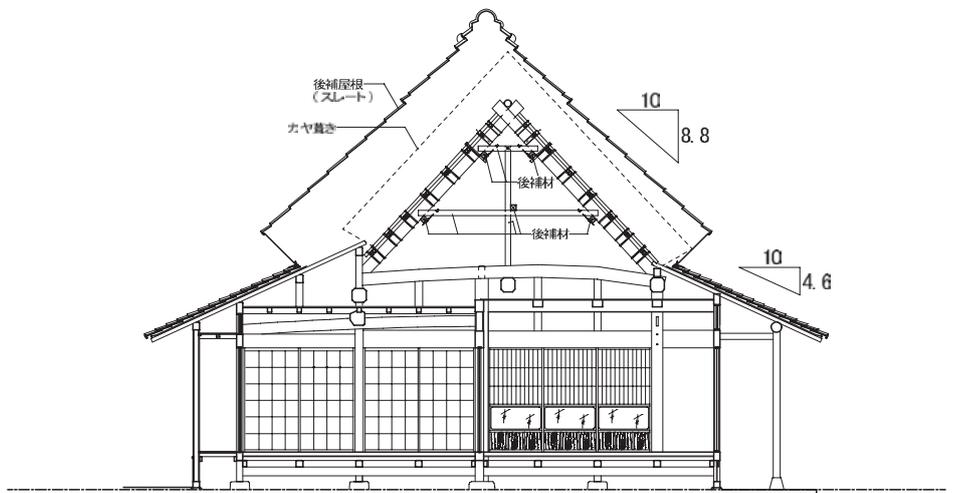
御当主兄弟と調査参加者



敷地配置図

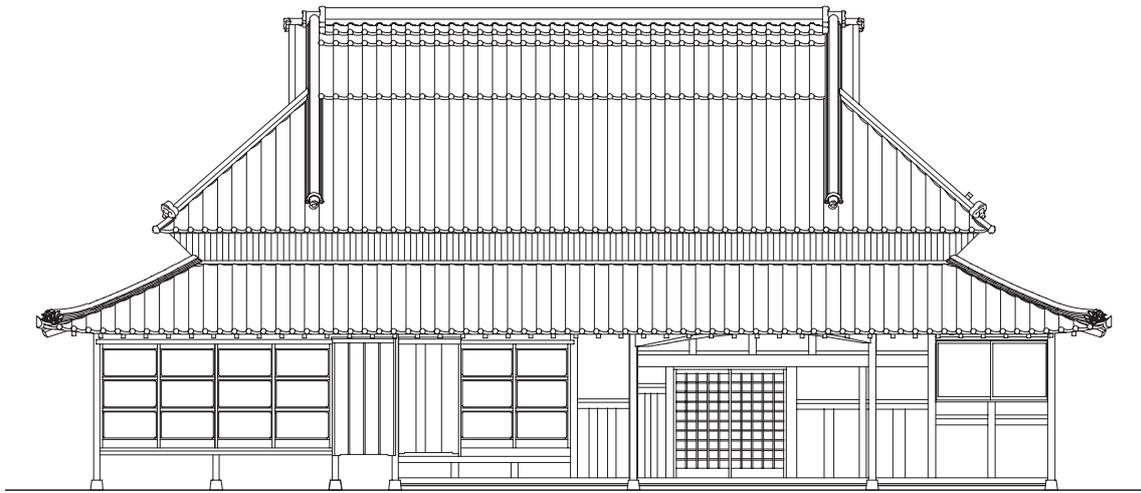


主屋平面図



主屋断面図



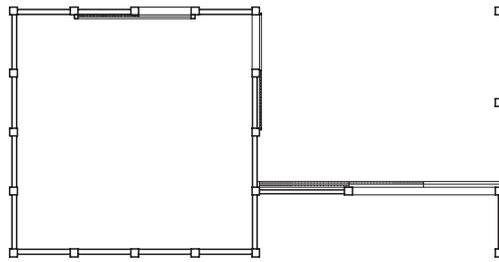


主屋南立面図

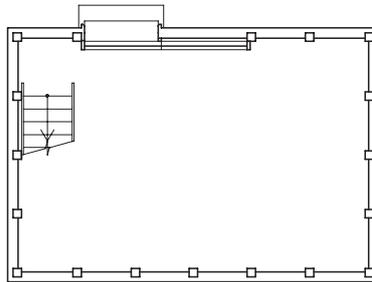


主屋西立面図

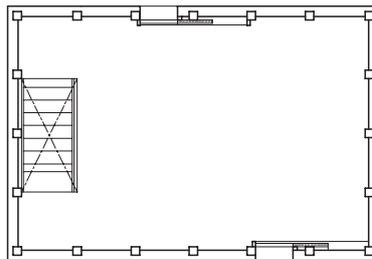




長屋門平面図



蔵一階平面図



蔵二階平面図



## とびだせ建築士 in 東予

支部報告

青年委員会 青陽 孝昭

平成26年12月9日 13:25～15:05  
 愛媛県立東予高校：建設工学科 実習室にて  
 東予高校生徒 40人  
 青年委員スタッフ 6人  
 今治支部：曾我部準 叶貴美 藤山敬晃 青陽孝昭  
 西条支部：曾我真企 新居浜支部：浅野憲一

青年委員会では、“とびだせ建築士”を実施し今回で第9回目となります。この活動は愛媛県内4校の高等学校建築科の生徒さんを対象に実施させて頂き、毎年継続して活動していく事により、将来、愛媛県内建築業界の後継者育成に繋がって欲しいという思いを込めています。

建築を学び始めた高校生の方々に建築の魅力や設計・工事監理の業務内容等に触れていただき、生徒の方々はもちろん、私たち自身のスキルアップにも繋がるものと考えています。



〔建築への思い〕

東予地区では、愛媛県立東予高校：建設工学科一・二年生を対象に授業の二コマの時間を頂き講演会とワークショップを開催させて頂きました。



〔ワークショップ〕

青年委員長あいさつに始まり、青年委員自己紹介を兼ねて建築の魅力や建築に進んだ切っ掛けや仕事上の苦労話などを話して頂きました。

自己紹介最後に小生が「建築と私」と題しパワーポイントを交え同じく自己紹介をしながら建築の流れを過去の物件でレクチャーし講演としました。以上がーコマ。

10分ほど休憩し二コマ目「どのような姿勢で建築・土木を学ぶべきか？」をお題にワークショップを開催。生徒40名を6班に分け我々青年委員がファシリテーターを務め、最初に「将来の夢を語り合おう」将来就きたい職業を書き出して頂き、「将来の夢に向けて今！考えないといけない事」を話し合いました。いろいろな職種をめざす生徒であるが、この学生時代になにを学び学校以外私生活でもいろいろと学ばなくちゃ～って意見も多数聞こえ、僕の学生時代を振り返って、すごく辛くもなったりしました。



〔成果発表〕

最後に各班の成果発表を生徒が行い、ファシリテーターが感想・激励の一言を添えて頂き終了しました。

閉会にあたり、生徒代表による、お礼の言葉を頂き終了しました。

数年後、彼が社会人となり建築に携わり共に仕事とかがして、建築士免許取得して建築士会に入会し共に活動できればと願っています。



〔集合写真〕

# とびだせ建築士 (道後温泉本館) に参加して

松山支部 河野行信

【日時】平成26年11月25日(火)

16:00~18:00

【場所】道後温泉本館(松山市道後湯之町5-6)

松山生まれで松山育ちのワタクシ、実は今回の「とびだせ建築士」の舞台でもある道後温泉(本館)に入ったことがなくて、子どもの頃からずう〜と「いつかは、いつかは」とは思っていたのですが、それが最近では「まあ、いつでも行くことが出来るから・・・」と、気持ちが離れておりました。このことに対して、愛媛地域の豊かな未来を考えなくてはならない青年の務め(?)を放棄したものと、少し後ろめたい気持ちでありました。

それが10月末に和田崇さんからお話を戴いたとき、これは“チャンス”とばかりに飛びついたのが、今回の事業。とっても大変でしたが、心に残る貴重な内容になりました。

さて皆様、道後温泉本館についてどれだけのことを知っていますかあ?

今なら誰にも負ける気がしませんね。(偉そうに、というお叱りの言葉が聞こえてきそうですが・・・)というのも、11月11日に行われました事前勉強会で花岡直樹先生から様々なことを教えていただいたからです。

それは、本活動の対象者である高校生(松山工業高等学校、松山聖陵高等学校)の皆さんに正しく伝えないといけないというプレッシャーもあったのですが、やはり興味のあることには身が入るものですね、楽しく勉強出来ました。

ここで一例を。(ご存知の方、ゴメンナサイ。)

- 道後温泉本館は1棟に見えますが、実は計4棟の建築群です。私が勉強会のときに一番初めにびっくりしたのがこのことでした。
- 4棟のうち北面にある「神の湯本館棟」が明治27年建築で一番古く、昨年120周年を迎えました。ということで、振鷺閣(しんろかく)の上にある白鷺は北(正面)を向いています。ちなみに「西面が正面だと思っていたのに、サギ(詐欺)だあ〜」という面白いギャグも頂戴しました。
- 神の湯本館棟ができた後、東面の又新殿・霊の湯棟、南棟、西棟の順でできたそうです。なんと、道後温泉本館の顔だと思っていた西面が、一番のニューフェイスだったのですね。
- 一見純和風に見える神の湯本館(北面ね)ですが、実は小屋組みにトラスが使われており、洋風の技術や意匠が使われています。(へえ〜)
- 又新殿は全国的にも珍しい皇族専用の湯殿で、現在の

銅板葺きの屋根は元々は桧皮(ひわだ)葺きであったそうです。

- 又新殿へは東側の道路が上がっているため、2階の御成門(時代劇などでおなじみの「上様のおなありい〜」の御成)を通じて出入りし、部屋は前室、御居間、玉座の間と並んでいます。また、壁には鳳凰等の絵をあしらった金箔貼り、几帳面を取った障子の棧、四方柱無節の桧の手摺など、最高級の方法、工法となっています。

まだまだ書きたいことは山のようにあるのですが、それにしても、道後温泉本館・・・、奥が深いです。

そして、「とびだせ建築士」当日を迎えたわけですが、いやあ〜、高校生に対しての説明の場面で、せっかく覚えた言葉(建築用語等々)がなかなか出てきません。カンニングペーパーも、夕方暗くなり、しかも鉛筆で書いていたため(もしかして老眼?)役に立たず。終わってから、ちゃんと伝わったかな?声は大きかったかな?等々、反省が尽きることはありませんでした。

この度は、ご参加いただいた高校の先生方を始め生徒の皆さん(説明中の皆さんの真剣な眼差しは忘れません)、花岡直樹先生、リーダー和田崇さん、ムードメーカー西森勉さん、私と一緒に松山工業高等学校を担当していただいた豊富な知識と経験の峰岡秀和さん、そして多くの会員皆様のご協力により、無事に終えることが出来ました。誠にありがとうございました。

私はこの「とびだせ建築士」は初参加だったのですが、貴重な時間をステキな同志と過ごすことが出来、これからもこのような“チャンス”には積極的に関わっていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



## とびだせ建築士 in 南予

支部報告

宇和島支部 亀岡 泰治

開催日時 平成26年12月6日10時～12時  
 吉田高校生徒 2年生6人 1年生2人  
 青年スタッフ 7人

今年のとびだせ建築士in南予は12月6日積雪中、西予市宇和町にて建築中（愛媛県オフサイトセンター・西予土木事務所新築工事）の現場見学を行いました。

## 工事概要

発注者：愛媛県 中村 時広

設計監理：(株)大建設

請負形態 戸田建設・堀田・小西共同企業体

工期 2014/3/20～2015/3/31  
(延べ12.3ヶ月)

敷地面積 2364.64㎡ (781.64坪)

構造種別 本体棟RC造(基礎免震) 地上4階建

建築面積 1352.92㎡ (447.24坪)

延床面積 3532.89㎡ (1167.89坪)

最高高さ 18.90m

根切深さ GL-4.91m

等

始めに作業所長に概要や「オフサイトセンターとは何か」等について説明して頂き、大規模建築等でしか仮設で設置しないタワークレーンについても説明して頂きました。

今年のとびだせ建築士in南予は、あえて大きな現場をピックアップさせて頂きました。

高校生が実際の現場を生で経験出来ることはこういう機会しかあまりないと思ったからです。慣れないヘルメットをかぶって、現場に入っていく高校生を見ると初々しく感じました。



(現場事務所にて概要等の説明を受けています)

高校生には、「実際の建築ってのはこんな大きなスケールの仕事なんだ」と技術よりも肌で感じて貰いたく、大きな現場に致しました。



(免震装置についての解説を黙々と聞いています)

今回来た生徒から、南予から、若き建築士が誕生することを切に願って、来年も継続していきたいと思います。

若き建築士の卵達に幸あれ！！



(構造について真剣に耳を傾けている吉田高校の生徒)

# 道後オンセナート見学会に参加して

松山支部 和泉 秀弥

道後温泉本館周辺で行われているアートフェスティバル「道後オンセナート2014」。

週末の夕方、観光客でにぎわう道後「振鷲亭（しんろてい）」から始まりました。

ガイドツアーで展示箇所を散策。アーティスト紹介、作品説明、日々の作品メンテナンス裏話、等々丁寧な説明を受けました。

中でもアーティストのステイーヴン・ムシン氏の影絵作品は「1000年先の道後温泉本館のまわりにある持続的な未来の姿とは何か？」をテーマにワークショップを行い、そこから生み出された未来の物語を展示されていました。

数ある作品の中で印象に残ったのは「1000年後の道後温泉本館」。

地球温暖化による海面上昇により本館は水没。湯は源



《影絵》

泉から配管され湯舟は気球で浮かんだバスタブ。奇抜な発想に思いましたが、同時に環境問題を考えさせられる作品の奥深さを感じました。

次に訪れたのが「ふなや庭園ライトアップ」。照明デザイナー 石川智一氏による作品です。

老舗旅館ふなやの庭園で「庭の緑と光を織り上げ、記憶に残る風景を作る」をテーマに、最新のLED照明を使い、光源、照らし方の工夫がされていました。

ライトアップにより緑の濃淡、幹のたくましさを感じました。またLEDの特性でもある直線的な配光ではなく自然で柔らかく、そしてエコな空間を感じました。

「道後オンセナート」温泉とアート作品をうまくコラボさせた企画。建築に通じるものを感じる有意義な見学会でした。



《ふなやにて》

松山支部 八束智恵美

平成26年11月22日土曜日、道後オンセナート見学会を開催しました。会員だけでなく、家族での参加も見られ、総勢30名でのにぎやかな見学会となりました。



《参加者のみなさん》

参加者が多くなったため全体を2班に分け、オンセナート事務局の方の軽快なガイドとともに、道後の街を散策しました。



《ガイドの方の説明》

松山に住んでいる私たちにとっては、すぐ行ける身近な場所ではありますが、意外と近すぎてあらためて出かけることのない場所でもあります。

オンセナートのイベントで様々な場所に仕掛けられた影絵をみて、道後の老舗旅館ふなやの庭園ライトアップも見学できる盛りだくさんの見学会となりました。

# これからも！

けんちくの輪

松山支部 西森 勉

和田さんよりバトンを投げつけられた松山支部の西森です。和田さんビックリしますから！会報誌でバトンを投げる（会報誌での指名）とは・・・。前々回は私の上司の井上が『けんちくの輪』に投稿していましたし近いところで廻しましたね（笑）。

ところで私が建築士会に入会したのは平成19年4月。今の会社に就職したてのころ上司から『建築士会に入らないか？』という誘いからでした。新入社員ですし断る選択肢はありませんでした。

あれから7年、現在は青年委員会を中心に活動に参加させていただいております。しつこいですがバトンを投げつけた和田さんとは現在、松山支部 青年委員会の和田委員長と副委員長との関係です。

私はその中で地域実践活動を任されています。簡単にいうと年一回のとびだせ建築士の担当者です。でもこれが悩みのタネであり、毎年のネタ探しに苦労しています。

今年度は道後温泉本館、一昨年度は松山地方気象台と古建築の解説を松山の高校生を対象に行いました。



《とびだせ建築士 2014 道後温泉》

解説といっても花岡建築事務所の花岡さんに講師をお願いして事前勉強会を開催し、それを元に自分たちが高校生に説明をするという、付け焼き刃的な行事のこなし方をしています。



《とびだせ建築士 2012 松山地方気象台》

その準備を進めていく中で、高校や見学先との調整、会員の人集めや説明のレジメ作成等、いつも慌ただしく過ごしているように思います。

それでも真剣に話を聞いている生徒をみると、やってよかったという達成感があります。



《全国大会 徳島大会》

それから最近、『なんのために建築士会の行事に参加しているのだろう？』と思うことがよくあります。人前で説明など話しをするのが得意でない。でも誰かがやらなければとも思う。文才が無いのでいしづちの原稿もできれば遠慮したい。けれど飲み会は嫌いじゃない（いや、大好き！）。士会活動に参加すればいろいろな知識や県内外の建築士の仲間が増える。そして、結局自分自身が楽しめればそれでいいかという結論になってしまいます。（真面目に活動されている方すみません）。

こんな私ですが、これからも建築士会の活動をまず自分が楽しめること。そして周りの人も楽しんでもらうこと。それが活性化となり会員数増加、建築士地位向上につながると信じて『けんちくの輪』を広げていきたいと思えます。



《若手建築志 2013 愛媛大会》

# けんちくの輪

けんちくの輪

10

宇和島支部 亀岡 泰治



西予支部の村上青年部長からバトンを受けました宇和島支部の亀岡泰治です。バトンは受けたものの何をお題に投稿しようかと考えましたが、さっぱり思いつかなかったので今思うこと等を書いていこうと思います。

我々がいる建築業界、どの業界の職種よりも技術が必要な職業だと思っています。それは意匠・構造・設備設計においても、大工・職人においても同じくだと思います。しかし残念なことに現在建築業界は圧倒的な高齢、人材不足となっており、愛媛のような地方ならなおのことヒシヒシと肌で感じている今日です。・・・正直、10年後の想像に良いイメージはありません。職人が要らないような建築に魅力はありませんし、まず技術職がないなりに何とかなるような形になるとは思えません。私達が少しずつ出来る事は、まずは若い人にこの業界での仕事のスケールのでかさ面白さを知って貰いたいと思っています。

今年は「とびだせ建築士 in 南予」に参加させて頂きました。ものすごく良い事業だと思います。吉田高校の生徒達が授業では体験出来ない実際の現場を見ることが出来、こんな大きな仕事をしているんだと体験出来るのが、生徒達に夢を持たすことの出来る一つの方法だと実感しました。感激してくれる生徒達を見てこの若人達がこの建築業界を繋いで行ってくれればと思いました。その為には自分自身ももう少し建築士会にお手伝い出来ることあるのでは無いかと思いました。それが結果的に自分のところにも帰ってくるのかなあと考えています。



(とびだせ建築士において実際の現場を見学している生徒達  
※ この中から多くの生徒が建築に携わってくれるとうれしいです)

次に技術の継承や伝統工法が消えないようにしたいと思っています。私は工務店をしておりますが、本当の古民家を改修するのは年に一回くらいですが、今の工法とは違うので若い大工に経験して貰う場が少なくなりました。船外(せがい)造りなどの工法を知っていてその建物を医者のように直せる若い大工はどれ位いるのだろうと思ってしまいます。(必要な技術なのに・・・)



腐食した部分の船外造りの改修(復元)

建築士会の活動を通じて多くの仲間を増やして、若い次の世代の子達に夢を持たせて、なおかつ(これが大事)自分が楽しく士会の活動が出来るような4月からの一年にしたいと思っています。

さてさて、次へのバトンは、急に振りますから、どなた様もよろしくお願い致します。

# 愛媛県建築士会会費納入期限に関する重要なお知らせ

## 愛媛県建築士会会費納入期限に関する重要なお知らせ

(「毎年7月末納付」を「毎年6月末納付」へ変更します。)

### 【お願い】

建築士会の活動は皆様方の会費により運営させていただいていることにお礼申し上げます。

つきましては、支部活動の活発化を図るため、会費納入期限を1カ月早めることについてご理解願うとともに、今後とも建築士会へのご協力についてよろしく申し上げます。

### 【会費納入期限の変更について】

現在、当士会「入会及び退会並びに会費に関する規程」には「会費は、毎年7月末までに納入しなければならない。」となっております。

### 【変更する理由について】

納入期限を6月末に変更する理由は、支部が実施する地域貢献事業（建築士の日の行事実施の経費）及び会員事業（会員増強の推進など支部活動の経費）への委託金を早期に交付することにより支部活動の活発化を図るものです。

このことにつきまして、1月30日開催の第6回理事会で承認されましたので、平成27年度会費より納入期限を**毎年6月末まで**と変更いたします。

### （参考）

「入会及び退会並びに会費に関する規程」（抜粋）

#### （目的）

第1条 この規程は、公益社団法人愛媛県建築士会（以下「本会」という。）定款第6条及び第7条の規定に基づき、会員の入会及び退会に関し必要な事項並びに正会員、準会員及び賛助会員の会費等に関し必要な事項を定めるものとする。

#### （会費）

第8条 本会の会員になる場合は、次に掲げる会費を納入しなければならない。

- (1) 正会員 年額 12,000 円
- (2) 準会員 年額 11,000 円
- (3) 賛助会員 年額 10,000 円とし、1口以上とする。

#### 6月末

- 2 会費は、毎年7月末までに納入しなければならない。
- 3 正会員又は準会員として年度の途中で入会した者は、当該年度においては、入会した月から月額により算定した額を会費とする。

# 平成27年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について

## 平成27年度「地域貢献活動基金助成対象事業」の募集について 〔建築士会は、まちづくり活動を支援します。〕

公益社団法人愛媛県建築士会は、会員の皆さんが地域の人々と共に行う社会貢献事業や建築士会の内部組織（研究会等）が実施する地域貢献活動としての事業を応援します。

すでに活動をしている方も、これから何か始めようという方も、一定の条件を満たせば事業に助成金を活用することができます。

### 1. 助成の対象事業の内容

会員が参画する以下のテーマに沿った営利を目的としない地域貢献活動が対象です。

- |                |                 |                      |
|----------------|-----------------|----------------------|
| (1) 地域のまちづくり   | (2) 景観の保全       | (3) 居住環境の保全・整備       |
| (4) 自然環境の保全・整備 | (5) 福祉環境の整備     | (6) 地域住宅づくり          |
| (7) 地域防災づくり    | (8) 歴史的遺産の再生と活用 | (9) その他、地域活性化、社会サービス |

### 2. 助成の対象

- ・ 建築士会会員が参画する地域貢献活動に対する活動助成
- ・ 国、地方公共団体から、建築士会に対しての委託事業、人材派遣に関連して進められる地域貢献活動に対する活動助成
- ・ 地域貢献団体助成事業運営委員会が助成を必要と認めた地域貢献活動に対する活動助成

### 3. 助成金

- ・ 本年度の助成金の予算額は、100万円です。
- ・ 1件当たり限度額50万円とし、助成率は事業活動費の3分の2とします。  
(継続的事業の場合は3年を限度とします。)

### 4. 応募手続き

- ①助成申請者は
  - ・ 申請時に組織内に建築士会会員として継続して在籍が3年以上の者が複数参画している活動団体の代表者
  - ・ 建築士会の内部組織（研究会等）の代表者で上記2の助成事業を行おうとする者。
- ②助成申請書は規定の申請書により申請してください。（申請書はHPからダウンロードできます。）  
<http://www.ehime-shikai.com/other/6734.html>

### 5. 応募期間

平成27年4月1日～5月29日まで（事前問い合わせは随時受け付けます）  
※応募期間前であっても、仮受付をしますので、お申し出ください。

### 6. 助成対象事業の決定と助成金交付等について

- ・ 助成対象事業の趣旨に沿った事業かどうかを基準に「愛媛県建築士会地域貢献団体助成事業運営委員会」が審査します。助成額の決定は、申請書受理後60日以内に書面にて通知します。
- ・ 事業の実施期間は、助成額決定日から平成28年3月31日の間に実施される活動を基本とします。
- ・ 助成金は、交付申請者に対して、助成金交付決定通知後の助成金請求に基づき交付します。
- ・ 交付申請者には、活動の内容・助成金の管理・報告書の提出に責任を持っていただきます。

### 7. 助成事業一覧について（事例）

年度	事業名		助成額	備考
23年度	松山市	まつやま災害救援ボランティアネットワーク	15万円	継続2年目
	宇和島市	③愛媛県建築士会宇和島支部文化財調査委員会	15万円	継続3年目
24年度	松山市	まつやま災害救援ボランティアネットワーク	15万円	継続3年目
26年度	八幡浜市	技手木村保一顕彰事業	20万円	継続1年目



古建築を生かした  
まちづくりシンポ  
ジウム  
(宇和島支部 文)



デジタル防災無線  
(講師：松山市消防局)

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成27年 5月号(104号) 3月26日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり5枚程度まで題名を付けて添付ください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付ください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々まで、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

## 編集後記

昨年の7月号から、この「いしづち」の編集に関わらせて頂く時に考えたことは、まずは会員の方々に「いしづち」のページを開いて、見ていただくということ、何とも当たり前過ぎることでした。そこから出発して、そのためには、一番には表紙のインパクトがほしいということ。そして次には「発信」というキーワードでした。つまりはそのどちらも、人探しが大事であると。

幸いなことに、表紙にしても執筆者にしても、お願いをした方々は皆さんお忙しいにもかかわらず、またボランティアであるにもかかわらず快く(と勝手に決めつけて)お引受け下さり、そのおかげで「いしづち」も少しずつかたちになりつつあります。

今回からはまた新しく、橋詰飛香さんをお願いをして「自然と家とにんげんと」というタイトルで連載をして頂くことになりました。それから「業・技」には、(株)濱崎組の菊池浩志氏から、左官のお話を頂きました。

これからは様々な業種からの面白いお話・伝えたいお話があれば、採り上げさせて頂きますのでご一報ください。お待ちしております。

(玉乃井 公和)

本誌の表紙の版画を提供して頂いております、山田きよ氏の版画展が今年も下記の日程で開催されます。実物には、プリントにはない美しさがあります。一度ご覧下さい。

### 【山田きよ版画展】

平成27年	4月9日(木)～14日(火)	ギャラリー・キャメルK(松山市錦町)
	7月10日(金)～20日(月)	ギャラリー・プロッサム(今治市桜井)
	8月24日(月)～29日(土)	画廊・シャノワール(兵庫県川西市)
	11月23日(月)～29日(日)	山荘画廊(大洲市大洲)

## 〈いしづち〉2015 / 3

平成27年3月発行

発行人 **会長 寺尾 保仁**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089)945-6100 FAX (089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長 玉乃井公和 副委員長 大上 恵子

編集委員 二宮 初子 宮内 理 越智 麻衣 石丸真智子 小笠原 元 水野日出夫